

へた。

アヲキゴンエモン 青木權右衛門 前田利常に仕へ、五百石を受け、元和元年大坂の再役に出陣し、五月七日二ノ丸町口にて戦死した。子孫世々藩に仕へる。

アヲキシヨウケン 青木將監 初めて前田利家に仕へた。子孫第七代矢次馬以忠に至り、明和七年二月十日逐電して跡目断絶した。

アヲキチブザエモン 青木治部左衛門 初め萬五郎・興右衛門。元祿十五年養父治部左衛門の遺知中二百石を襲ぎ、享保九年五十石を加へて二條吉忠夫人の御附御用人となつた。寶曆八年七十八歳を以て歿。

アヲキナホチカ 青木直親 通稱新兵衛。文政元年父新兵衛直方の遺知二千石内二百石與力知を受け、奏者番・公事場奉行を経て、天保九年魚津在任となつたが、十四年四月指除き、八月知行を召放され、俸十五人扶持を得て能州島之内に流刑を命ぜられ、十一月出發した。時に四十四歳。子吉九郎嘉永四年七月新知七百石を受けて別に家を興した。

アヲキナホユキ 青木直之 通稱大助・新兵衛。實は前田志摩孝成の二子。貞享三年養父新左衛門正式の遺知千石を受け、前田吉徳御附・御側小將番頭より昇進、享保九年三百石を加へ、元文二年また五百石を増して人持組に列し、延享元年更に五百石を加へて、合計二千三百石内三百石與力知とせられ、二年若年寄に列し、寶曆元年致仕して自省と號し、料知八百石を食み、三年正月廿六日七十二歳を以て歿した。

アヲキノブテル 青木信照 通稱善四郎。初め織田信長の臣であつたが、後前田利家に

越前府中に從ひ、天正十一年俸三千石を受け、十二年三百石を加へ、十七年六千三百五十一俵となり、十八年武藏八王子で討死した。

アヲキハンノジヨウ 青木半丞 初名五兵衛・新兵衛。越前の藩臣・幡鎌彦左衛門の子であるが、青木正玄の女婿となつて其の氏を冒し、秀康・忠直二世に歴任した後、寛永五年前田利常に仕へて五百石を賜はり、馬廻組に列し、寛文六年に歿した。

アヲキヒコエモン 青木彦右衛門 前田利常の時、老臣本多政長が越中に放鷹した際、踊場で申分を生じ、富山侯前田利次の小姓分片岡平左衛門を討つた者があつたが、犯人が誰とも知れなかつた。利次は大に怒り政長の不義を責めたから、利常は政長に蟄居を命じ、申譯の爲その家臣一人に責を負はせることにしたので、寛永十九年十二月廿三日家老青木彦右衛門は切腹した。しかしその子孫は後世まで本多氏に仕へてゐた。

アヲキヒロスケ 青木弘助 天明三年父三郎兵衛正武の遺知二百石を襲ぎ、組外に列し、次いで前田齊敬の御抱守として大小將に轉じたが、寛政五年六月十八日能登に流された。

アヲキホツエ 青木秀枝 通稱新三郎。加賀藩の料理人青木義登の長子で、天保四年六月廿四日生まれ、弘化中父の蔭に因り、別に七人扶持を賜はつて料理人となつた。秀枝武技に長じ、國學を橋守部に受け、又田中躬之に從うて國史・律令・萬葉集を研鑽し、安政四年明倫堂國學内用に加つた。秀枝又夙に勤王の志を抱き、元治元年四月藩侯齊泰に上書して大義を論じ、次いで慶寧の上洛に隨つて志

士と往來したが、歸藩の途八月十六日小松に抵つて捕へられ、篠原忠篤の邸に鎖せられ、後十月十九日切腹を命ぜられた。享年三十二。二子權太郎・代次郎は連座して流に處せられたが、齡尚幼なるを以て暫く一類預となつた。明治二年十月藩新三郎の前罪を宥し、三年十一月祭案料をその家に給し、次いで廿四年九月靖國神社に合祀せられ、十二月特旨を以て正五位を贈られた。

アヲキマサル 青木正玄 幼名勘七郎、後新兵衛。近江の出兵衛正照の三男。天正の初越前の原彦次郎に仕へ、次いで佐久間盛政に柳ヶ瀬の役に、中村一氏に關東の陣に從ひ、又蒲生氏郷に臣事し、氏郷卒後上杉景勝に仕へて慶長六年伊達政宗と戦ひ、景勝の封を削られた後、普化僧となつて越前に來り、又結城秀康に祿せられて千五百石を受け、大坂の役には子正次と共に松平忠直に從うて力戦功を立てた。然るに正次の歿するに及び、正玄は哀婉に堪へず、致仕して京に赴き、髮を剃つて阿房齋と稱してゐたのを、元和九年前田利常に招かれて四千石を受け、寛永元年更に千石を加へ、晩年芳齋と號した。芳齋は一に方齋に作る。同九年七月十二日歿、齡七十二。その嫡統は第七代新兵衛直親に至つて一旦断絶した。

アヲキマサヨシ 青木正慶 通稱勘三郎・知太夫・内藏太。寶曆三年父勘太夫の遺知三百石を襲ぎ、大小將から表小將に轉じ、安永四年越中五ヶ山に流された。子權太郎新知百石を受けて、祖父勘太夫の後を襲ぎ、寛政三年更に本宗を繼いで新兵衛直方と稱した。直方の子は直親である。

アヲキモクベイ 青木木米 京師の陶工。文化二年金澤の町年寄龜田純藏は京に上り、木米に金澤に下つて陶窯を開くことを囑した。木米乃ち翌三年一たび來つて陶土の適するものあるや否やを検し、四年陶窯を春日山に開いたが、甚だしき成功を見ずして、五年冬歸洛した。

アヲキヨエモン 青木與右衛門 前田利家に仕へて二百五十石を受け、子孫相襲いで藩に仕へた。

アヲクサツジ 青草辻 金澤近江町に並んで、野菜の市場であつた。今は青草町と呼ぶ。**アヲクビ** 青首 能登の漁村で十五歳に達した男子をいひ、その初めて出漁した時開く酒宴は青首祝といはれた。一種の元服式である。

アヲサキ 青崎 ↓アヲガサキ 青ヶ崎。**アヲジサダマサ** 青地定政 通稱百十郎・采女。青地等定の養子で、實父は本多安房守政重の男志摩の孫石川久六郎である。後に定政の子齊賢・禮幹が本多氏に親善であつたのはこの理由からである。定政は馬廻組に編せられ、その歿したのは延寶三年五月であつた。年廿八。

アヲジシゲノブ 青地蕃宣 初諱基規・基行、後蕃宣。字は履和。東郭齋・間章と號し、通稱は四郎太郎・彌四郎。正徳九年八月廿一日金澤に生まれ、享保十三年父齊賢歿し、四年四月世祿八百石を受け、馬廻組に隸し、十五年正月大小將に選つた。延享四年五月近習番となり、十二月大小將横目、寛延二年八月持弓頭兼盜賊改奉行、四年正月町奉行に累任したが、寶曆六年その職を擱はれ、閉門を